

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 5 4 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 1 5 (直通)				
開催日時		平成 3 0 年 5 月 3 0 日 (水) 午後 7 時から 8 時 4 5 分まで				
開催場所		相模原市役所 本館 2 階 第 1 特別会議室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 8 人 (こども・若者未来局次長、他 1 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 委嘱状交付 3 こども・若者未来局 次長あいさつ 4 議 題 (1) 幼保連携型認定こども園の認可及び民間保育所の設置認可について 5 その他 (1) 相模原市における児童虐待等の相談状況について 6 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 委嘱状交付

3 こども・若者未来局 次長あいさつ

4 議 題

(1) 幼保連携型認定こども園の認可及び民間保育所の設置認可について

待機児童数が昨年度の0人から83人と大きく増加しているが、国が待機児童の定義を変更したことが原因ということでしょうか。

そのとおりである。ちなみに、従来の基準を適用すると、今年度も待機児童は0人である。

全体の定員が13,250人である一方、実際に利用している児童は12,423人ということで、1,000人ぐらい定員が空いているということか。

地域によって利用者数に偏りがあるので、定員に空きがあるにもかかわらず、待機児童が生じてしまっている。

区ごとに偏りがあるようなので、待機児童数やアクセスの問題など地域の实情に沿って保育所の整備を進めていく必要があると思う。

幼稚園の定員は、もともと280人であったが、幼保連携型認定こども園移行後は定員150人の募集となっている。どのような理由で、このような定員設定としたのか。

幼稚園としての認可を受けた際の定員は280人だが、現在利用している児童は150人程度となっており、それをベースとして今回の定員設定を行ったものである。

幼稚園としては280人を受け入れることのできる基準の設備を有しているということでしょうか。

県がその人数で幼稚園として認可を行っており、設備も基準を満たしているものと認識している。なお、幼保連携型認定こども園として150人を受け入れるための設備については、基準を満たしていることを市が確認済である。

新設保育所は2園とも株式会社による運営であるが、法人所在地が東京都である。税収等を考えると、分社化して本市に登記をすることも有効であると思うが、そのような検討を行っているのか。

現在検討を行ってはいないが、今後の課題としていきたい。

待機児童は駅周辺で多くなっていると思うが、どのような対策を行っているのか。

今回は小田急線沿線、横浜線沿線に限って募集を行った。古淵駅の周辺でも募集を行ったが、適当な事業者がなかったため、今回の提案には入っていない。相模大野駅・町田駅周辺と古淵駅周辺については追加募集を行っており、今後審議をお願いすることになる。

園庭を代替公園としている園があるが、公園を園庭の代替とすることについては様々な場面で問題が指摘されている。今回のケースでは何か問題があるか。

認定保育室である現在も当該公園を利用しているが、問題は起こっていないという認識である。運営法人は、所有しているバスで月に1回程度自然体験ができる公園等に行き、園外保育を実施しており、認可移行後も継続していく意向がある。

代替公園の問題については、市でも課題と認識しており、現在アンケート調査を行っている。その結果に基づき、対応を検討していきたい。

代替公園については、トイレの問題も考えてもらいたい。全ての公園や広場にトイレを設置することは現実的でないという理解しているが、園庭の代替として認可をしている以上、他の部局とも調整して、アイデアを出してほしい。

5 その他

(1) 相模原市における児童虐待等の相談状況について

虐待等の相談件数が増えたということで、児童虐待に関する市民の認知が高まったことはよいことだと考える。一方で、この資料では相談後の対応や結果が見えてこない。そういったものの評価は行っているのか。

個々のケースにもよるので画一的な評価は難しいが、統計的なものも支援の中で生かせるよう考えていきたい。

今回の資料の数字と完全に一致するわけではないが、福祉行政報告例の数値を見れば、相模原市の虐待の概要といったものが見えてくると思う。具体的な数字を見ることで、状況を把握できるようになるので、今後はそういった資料も出してもらえるとよいのではないか。

虐待対応という点では、通告者に対する呼びかけは多くされているが、子どもに対してメッセージを伝えるということも重要であると考えます。

DV家庭など、家族全体が暴力の病巣のようになってしまっているケースもある。虐待を子どもだけでなく家族の問題として捉える視点を行政は持っていただきたい。

6 閉 会

市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成30年5月30日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
4	かわさき ひさし 川崎 永	相模原市幼稚園・認定こども園協会		欠席
5	たがわ つくよ 田川 継世	相模原市ひとり親家庭福祉協議会		出席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学特任教授	専門分科 会長	出席
7	たけした まさゆき 竹下 昌之	相模女子大学常務理事	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あらい みゆき 荒井 美由紀	相模原市立小中学校長会		出席
10	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
11	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		欠席
12	たじま としき 田島 敏樹	相模原市医師会		出席